

レジデントカリキュラム **呼吸器科**

概 要

当院呼吸器科は、地域の基幹病院として幅広い呼吸器疾患に対応することが求められている。感染症に始まり、慢性呼吸不全、間質性肺炎、肺癌など多岐にわたる疾患の診療を行っている。また、他科症例のコンサルトを積極的に行うことにより、呼吸器専門医を目指す医師にとって総合的な臨床経験を積める環境が整っていると考えられる。

2007年度より当院は日本呼吸器学会の認定施設である。

2010年度より当院は日本呼吸器内視鏡学会の認定施設である。

当院での各疾患の対応を列記する

- 1) 肺癌：気管支鏡による確定診断 早期肺癌症例は他院呼吸器外科へ紹介。進行肺癌については当院で抗癌剤治療、放射線治療、分子標的治療、対症療法を行う。末期医療も基本的に当院で行う。
- 2) 慢性呼吸不全： 型および 型呼吸不全のフォローを行う。内服・吸入治療の他、呼吸リハビリ、在宅酸素療法、マスク式人工呼吸療法を行う。急性増悪時にはマスク式もしくは挿管-人工呼吸治療を行う。
- 3) びまん性肺疾患：各種びまん性肺疾患に対して気管支鏡検査を行い、確定診断 ステロイド（および免疫抑制剤）投与の適否の決定を行う。
- 4) 各種感染症：市中および院内肺炎、肺結核、結核性胸膜炎、膿胸、嚥下性肺炎などの疾患に対処する。
- 5) 気管支喘息：ガイドラインに則して対応する。
- 6) 睡眠時無呼吸症候群：当院ではアレルギー科にて対処している。同科にて該当症例の担当を行うことは可能である。

研 修

- 1) 当院でのレジデントとしての研修期間は3年間を基本とする。
- 2) 1～2年目は手技的には気管支鏡技術の習得に重点をおき、臨床経験を通して各種疾患の基本的治療方針の理解を深める。
- 3) 3年目は将来を踏まえて、悪性疾患、びまん性肺疾患、感染症など、各人の専門性に即した症例を中心に臨床を行う。
- 4) 希望者は臨床研究も可能である。
- 5) 3年間の研修後、スーパーレジデントとして当院での臨床を継続することが可能である。
- 6) 更に専門性を追求したい意欲のある医師には、他院呼吸器科への人材紹介にも協力する。

研修内容

- 1) 実際の臨床の場では、レジデントはスタッフ医師と協議し、各種疾患の診療に従事し、標準的治療の習得を目指す。同時に研修医のアドバイザーの役割も担う。
- 2) 呼吸器科病棟は東 7 階である。担当症例数は6～7名の予定である。ただし、挿管・人工呼吸を要する重症症例については主治医単独ではなく、呼吸器科全体で対処する方針である。

- 3) 気管支鏡検査は週2枠(火・金)あり、年間100例程度である。現時点では2泊3日の入院検査として行っている。
- 4) 外来業務の希望者には適宜、時間枠を設定する。

その他

当院でレジデント研修を目指す方々にアピールしたいのは、病理および細菌検査部門のスタッフに恵まれていることである。少人数であるが、真摯なスタッフに恵まれている。いずれも呼吸器科には不可欠な部門であり、これらの検査部門の技術習得(細胞診など)を真剣に希望されるならば、臨床との両立が可能になるように協力を惜しまない。

また、当院は研究施設が整っており、臨床と研究の両立をはかりたい希望のある医師にとって、恵まれた環境にあると言える。